

令和4年度第2回練馬区立美術館運営協議会 要録

日時：令和5年3月22日（水）午後1時30分

場所：サンライフ練馬3階研修室

出席委員 高橋幸次会長、島田紘一呂副会長

伊豆井秀一委員、佐藤康宏委員、島田紀夫委員、内藤正人委員、馬淵明子委員、柴田さちこ委員、やない克子委員、小松あゆみ委員、富田けんじ委員、須藤麻世委員、畑智江子委員、石原秀男委員、吉田巳蔵委員

区職員 小金井地域文化部長、渡辺文化・生涯学習課長、稲永美術館再整備担当課長

会 長： 本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。
ただいまから、令和4年度第2回練馬区立美術館運営協議会を開催いたします。新型コロナウイルスの感染防止に鑑み、今回の会議は、接触機会の低減のため、内容を精査したうえで、1時間をめどに会議を終了したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。はじめに、小金井地域文化部長よりご挨拶いただきます。

部 長： 地域文化部長の小金井でございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本日は今年度の後半の報告、来年度の事業計画について報告したいと思っております。コロナ禍で、美術館も大きな影響を受けました。様々な制限の中で、「日本の中のマネ」展については、日本アート評価保存協会の秀逸企画賞を受賞しております。最後に美術館再整備の報告もでございます。なお、秋元館長におかれましては、3月末をもちましてご退任となります。後任として国際交流基金で活躍されている伊東正伸さんを新館長としてお迎えいたします。秋元館長には後ほど挨拶をいただきたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

会 長： それでは議事に入る前に、委員の出席状況について、事務局から報告をお願いいたします。

文化・生涯
学習課長： 本日は江川委員、宮崎委員より欠席の連絡をいただいております。今期委員は17名、現在15名の出席でございます。従いまして、美術館運営協議会条例第7条第2項の規定により、本日の協議会は成立いたしました。なお、傍聴希望者は1名です。以上ご報告いたします。

会 長： ありがとうございます。はじめに、本日の議事の進行についてお諮りいたします。

次第の審議事項1、「令和5年度事業計画（案）」から、順次、事務局より説明を受け、議題ごとに質問等を受けたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

<異議なしの声>

会 長： それでは、次第の審議事項1、「令和5年度事業計画（案）」から、順次、事務局より説明をお願いします。

館 長： <「令和5年度事業計画（案）」について説明・・・館長・学芸員>

会 長： 「令和5年度事業計画（案）」について、ご質問がありましたらお願いします。

委 員： 「生誕120年 古賀忠雄」展が無料なのには理由があるのでしょうか。

学芸員： 今回はほぼコレクションの展示で、ご遺族の方から少し借りてくる小規模なものになるためです。また、あえて無料展にすることで、同時期に行われる小・中学校展を目的として来館された方々にも観ていただきたいという意味もあります。

委 員： 「植物」展について、タイトル名から内容が想像できない気がします。何か他にタイトルの候補はないのでしょうか。

学芸員： ご意見ありがとうございます。今まさに検討中で、ご指摘のとおり展覧会の内容をより分かりやすくするため、「植物と歩く」という展覧会名にしたいと思っております。さらにそこに副題を付けて、具体的にどういった植物図を展示するのか、当館のコレクションから魅力的な作品が出品されることを伝えられるようなものにしたいと考えています。

委 員： 会期的にも牧野富太郎がフィーチャーされる時期なので、例えば「牧野富太郎と歩く」といった人物名を入れた方が注目されるのではないかと思います。同じ内容でもどのようにそこにアクセスされるかが重要だと思います。また先ほどお話のあった入館料についても、無料だから来館者数が増えるというわけではなく、あえて有料とすることで、企画展そのものに価値があるとイメージしていただくことにもなると思います。観覧料を設定することに関しては私は良いと思います。

館 長： 植物展に関して、元々はコレクション展だったところですが牧野富太郎に絡め、膨らませて植物にフィーチャーさせようと考案された企画展です。担当学芸員も今回がメインで担当する初めての企画展です。貴重なご意見、ありがとうございます。

また観覧料に関して、先ほども他の学芸員から話がありましたが、同時期に小中学校連合書きぞめ展等の学校展があります。当館の2階、3階を続けて観ていただきたいという意図で無料展としております。古賀忠雄氏は練馬にゆかりがあり、美術館の前にも作品があります。これから、より親しんでいただきたいという思いもあり、悩むところではあるのですが、無

料展といたしました。今後も企画展の内容や時期に合わせ、検討を進めてきたいと思っています。

部長： 今までの経緯も含めてご説明させていただきます。子どもたちが多く来館する小・中学校展と同時期に開催される企画展については、有料展で開催したこともあります。以前、より多くの子ども達に無料で分かりやすい展示をみていただき、常設展のような形で開催していただきたいと、この場でご意見をいただきました。有料か無料かは難しい問題ですが、展覧会ごとに、対象者、会期、内容を考慮したうえでこれからも決定していきたいと思っています。

委員： 「植物展」については、今年のNHK連続テレビ小説「らんまん」の放送時期と重なります。東大泉には牧野記念庭園がありますが、同園にも展示室があります。どのように差別化を図っていくか教えていただきたく思います。

学芸員： 牧野記念庭園からお借りする植物図と当館の持つ絵画コレクションを同時に観ていただくことで、両者の魅力を感じていただけるような企画展にしていきたいと思っています。

委員： 分かりました。両施設の行き来についても考えていただければと思います。

会長： 「令和5年度事業計画（案）」について、ほかに質問がなければ、承認とさせていただきます。
次に、次第の報告事項2、「令和4年度事業報告（中間報告）」について、説明をお願いいたします。

館長： <「令和4年度事業報告（中間報告）」について説明…館長、学芸員>

会長： 「令和4年度事業報告（中間報告）」について、質問がありましたらお願いいたします。

委員： 企画展の観覧者数について、多ければいいというものではありませんが、今年度の観覧者数を美術館としてどのように捉えていますか。

館長： コレクション展の目標達成率が厳しい状況でした。予算が厳しい中で展覧会を組んでおり、今年度は大きな成果を上げた「日本の中のマネ」展に予算が集中し、全部の展覧会に同じように力を入れるのが難しい状況でした。先ほど展覧会のタイトルのお話しもありましたが、予算をかけずにどのようにして来館者数を増やすかについては、今後の課題と考えています。この2～3年、練馬区立美術館の特徴をどう出すかということで、実験的なこともやってきました。中には非常に良い形で話題になる展覧会もあり

ましたが、肩すかしのようなものもあり、来館者を増やすことの難しさを感じました。

来館者数という数字だけではなく、来館者のリアクションや理解度も考慮しながら、今後も展覧会を開催していきたいと考えています。

委員：美術館再整備を控え、観覧者数が注目されてしまう面があると思いますが観覧者数が増えればよい展覧会ということではないと思います。引き続き、練馬区らしい、良い展覧会を開催して欲しいと思っています。

会長：コロナで来館者が減っているのも大きいと思います。そのため、企画展の内容で観覧者数が減ったという捉え方は正確なところではないと思います。

それでは、次の方の質問をお願いいたします。

委員：展覧会事業の観覧者実数と目標比についてお伺いします。目標比は展覧会によって異なるとは思いますが、例年どのくらいなのでしょう。

館長：平均すると70%程度、80%までは達成できないと思います。目標比は、展覧会によって相当違いがあるほか、予算による影響もあります。

文化・生涯学習

課長：目標比についてですが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の感染予防として、美術館を含めた施設や様々なイベント等に対して世の中全体の気運が下がっているため、目標値と実数には開きが生じているという状況です。令和4年度については、やや緩和されましたが、コロナの影響によるものもあろうと考えています。

予算につきましては、令和3年度以降、コロナの状況に鑑みイベント等も再開して行く中で予算を作成しているため、収入予定額の基盤となる来館者数を想定しづらいという面があります。

委員：マネ展は、そのような中で観覧者数も伸び、賞も受賞したということですが、企画内容ももちろんのこと、予算をかけると高い目標値でも近づくことができるかと私は捉えました。

館長：予算と目標値の件につきましては、一般論として、皆さんに良く知られているような名画を他の美術館等から借りるとなれば、大きな予算が必要となります。また、総じて、そのような企画の方が注目されやすく、展覧会のイベントとしての側面としては、予算の大きさは集客につながります。

一方で、練馬区の現状の予算の中では、自館のコレクションを活用することで、他館からの借用を少なくし輸送費や保険料等を抑えるなど、工夫をしながら展覧会を企画しています。お客様にどうしたら喜んでもらえるか、また、社会教育施設としての美術館の役割も持ちながら、費用的にもバランスが取れたものを作るようにしています。もちろん、今年度のマネ展のような大きな展覧会も開催したいと考えておりますが、知名度のあるよう

な展覧会は費用もかかるので、バランスを取りながら運営していく必要があります。

会 長：他にありますか。

委 員：以前の区議会にて、美術館の作品収集の方針について検討すると地域文化部長が答弁していましたが、具体的な方針をお聞かせ願いますでしょうか。

部 長：美術館の作品収集の方針については、美術館再整備に関連して、新しい美術館のコレクションについての質疑の中で答弁したものであると思います。美術館運営協議会の中でも委員の方から購入についてのご意見をいただいております。資料の収集は博物館・社会教育施設の機能として大きな部分だと認識しております。現在も収集方針はございますが、美術館が新しくなるにあたり、現在あるものを整理し、どのようなコレクションにし、どのように区民の方にご覧いただくかを含めて検討していきたいと考えています。再整備に向けての収集方針は検討中のためお示しできませんが、本日、この後開催される美術資料収集委員会にて、美術館側から購入希望のある作品につきましては、資料収集委員会の答申をもって、今年度の補正予算にて購入したいと考えています。

委 員：もう1点、展覧会のPRについてです。美術館に興味がある方が限られている中でのPRなので、厳しいことは承知しておりますが、練馬区は一步引いてしまうようなところがあると思います。大学の誘致、アニメ、安全・安心まちづくりに関する世界認証制度「セーフコミュニティ」等、他の自治体に先を越され、残念と感ずることがあります。館長をはじめ、職員の方は頑張っていることと思いますが、一步引いてしまうと少し地味かなと思われるので、ぜひ頑張っていたきたいと思っております。

文化・生涯

学習課長：アニメのお話がありましたので、少しお話しさせていただきます。アニメに関しましては、周辺の自治体でもさまざまな取組を行っているところですが、練馬区を取組をご紹介させていただきますと、今年の8月に「JIN-仁-」の作者である漫画家の村上もとか氏を中心に、練馬区ゆかりの漫画家と連携したトークショー・ギャラリー・展示イベント等の開催を予定しております。練馬区独自の事業として、他自治体に負けないような、また、練馬の魅力を発信するような事業を行う予定です。練馬区は、東映をはじめとしたアニメの歴史があるので、練馬のオリジナルの部分に盛り込みながら発信する等、取り組んでいきたいと考えております。

会 長：その他にありますでしょうか。

委 員：広報についてですが、「平子雄一×練馬区立美術館コレクション」展については、広告費にお金がかけれなかったということでしょうか。広報活動実績で、マネ展には広告として記載があるが、平子展はありません。

館長： 平子展とマネ展では、展覧会の中身が大きく異なります。平子雄一氏は、現代アートの世界で知名度が上がってきている作家です。そのため、観覧者も一般の方よりも専門家筋の方が多くいらしています。単純に広告費をかけていないから観覧者が少ないということではありません。

委員： 以前、区議会の予算委員会の中で、平子氏の作品を購入予定であり、平子氏は練馬区ゆかりの作家であるとお聞きしました。広告費をかければ観覧者が増えるということではないということは承知しておりますが、観覧者数が伸びないということであれば、区にゆかりのある作家なので、区としてバックアップをすべきではないかと感じました。

文化・生涯

学習課長： 広告費に焦点が当たっていますが、展示される作品やどのように展示をするかでも、観覧者数は左右されます。広告費として必要な額は、予算計上しています。

委員： 平子氏は練馬区ゆかりの作家ということですので、区としても、育てる気運を区民の方にもってもらえるような働きかけをしていただきたいと思います。

会長： 他に質問がなければ、「令和4年度事業報告（中間報告）」について承認とさせていただきます。
次に、次第の3「その他」に入ります。事務局から何かありますか。

美術館再整備

担当課長： 事務局から一点ご報告させていただきます。
<「練馬区立美術館および練馬区立貫井図書館改築等にかかる基本設計委託事業者について」説明>

会長： 事務局からの報告について、ご質問がありましたらお願いします。

委員： 再整備に対して区民の反応はいかがでしょう。

美術館再整備

担当課長： 様々な意見をいただいております。昨年開催しましたプロポーザルの二次審査で行った傍聴者アンケートは、55枚集まりました。ほとんどの方が「期待している」「楽しみだ」と肯定的な意見をいただきましたが、反対するといった意見も3件ありました。否定的な意見としては、サンライフ練馬はどうするのか、費用はどうするのかといったものでした。

部長： 補足です。反対される方もいらっしゃいますが、サンライフ練馬の代替施設への意見や、予算をかけること自体に反対されている。そういったことで、引き続き様々な意見をお聞きしながら進めているところです。

委員：他の自治体だと、例えば目黒区立美術館は取り壊しが決定し、複合施設になるそうです。反対運動も多く起こっていると聞きます。行政の押しつけではなく、実質的に美術館が良くなることを願っています。

委員：3月13日からの美術館でのマスク着用についての考えを教えてください。また今後の自動検温器の運用についても教えてください。

文化・生涯

学習課長：資料の23ページでも新型コロナウイルス感染症対策ということで添付させていただいております。資料の情報と国の方針をマッチングさせてお話ししますと、3月13日から美術館でのマスク着用については、個人の判断となっています。一方でそれ以外の自動検温器等の運用については現時点では維持している状況ですが、5月に5類へ下がることや国の動きを勘案しながら、今後を考えていきたいと思っております。

委員：マスクについては、分かりました。検温器については、エレベーターで上がってくる人たちは検温する機会がないのが気になっていました。また、ぶらぶら美術館、日曜美術館といったテレビへの出演もより増えていけば良いと思っております。

会長：ありがとうございました。以上で美術館運営協議会を終了いたします。ご協力ありがとうございました。